CHURASHIMA MUSEUM

美ら島まるごとミュウジアム

第2回

戦後復興期の美術

今回は、絵画の分野において、
戦前戦後と意欲的に沖縄を主題に描き続け、美術界に大きな影響を与えた代表的作家、名渡山愛順と大嶺政寛を紹介します。

沖縄美術界の先駆者たち

戦後、沖縄は米国統治時代を乗り越え、日本本土への復帰の道をたどり今日まで至ることとなります。
アメリカそして本土からの影響、またその時代の流れを背景に、沖縄の芸術や文化は独特な形へと変容し、また、美術家たちのあくなき創作活動によって、沖縄美術が確立されました。

名渡山 愛順（などやま あいじゅん）（1906-1970）洋画家

作品名:「郷愁（きょうしゅう）」

●制作年:1945年　●材質:カンバスに油彩　●寸法:100.3×80.2cm

名渡山愛順は、多くの女性像を描いていて、この作品は戦後まもなく描かれた。
「郷愁」では、紺地の絣を着た女性の瞳が遠く故郷を懐かしんでいる様に感じ取られる。ノスタルジーの濃さがあるものの、その思いの深さはまるで舞踊の舞台へと誘ってくれるかのようである。

所蔵・監修:県教育庁文化施設建設室（県立博物館・美術館所管）

大嶺 政寛（おおみね せいかん）（1910-1987）洋画家

作品名:「八重山風景（やえやまふうけい）」

●制作年:1970年代　●材質:カンバスに油彩　●寸法:91.2×116.9cm

沖縄的風景美の典型を創り上げてきたのが大嶺政寛である。この作品からは沖縄の太陽に赤瓦が眩しく映える。戦後、彼はつぎつぎと喪失する昔風の赤瓦を追って、八重山にたびたび出向くこととなる。失われつつある風景を憂い追い求める政寛の想いが伝わってくる作品のひとつである。

2007年11月1日
那覇新都心にOPEN予定!!
沖縄県立博物館・美術館

http://www-edu.pref.okinawa.jp/kensetsu/